

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471200291		
法人名	株式会社 パル		
事業所名	グループホーム ゆめが丘		
所在地	三重県伊賀市ゆめが丘4-2-1		
自己評価作成日	令和 3 年 6 月 20	評価結果市町提出日	令和3年12月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosoCd=2471200291-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3 年 7 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に、利用者様及び家族様の目線で、考え実行している。
常に代表者・管理者・職員が常に連携して利用者様のケアと家族様への対応を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は伊賀市中西部のゆめが丘団地の一角に2003年に設立、現在の運営会社に引き継がれ6年目を迎えた。経験豊富な代表者・管理者、さらにベテランの職員を筆頭に全職員が常に利用者の目線で考え、利用者の日々の楽しみを模索し支援している。音楽療法で培った発声法で合唱し、座位でもしっかり手足を動かす体操を日常的に取り入れ、利用者の現存能力を伸ばし維持することで安心・安全の生活につなげている。コロナ禍で家族との面会ができない中、リモート面会などを工夫したり、毎月の便りには利用者の笑顔の写真と担当職員の手書きのメッセージが添えられ家族に喜ばれている。リビングでニュース番組を見る利用者の直ぐ近くに寄り添い、説明を付け足し会話を楽しむ職員の姿に事業所の取り組みを垣間見た。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時の唱和(日々)や社内会議などで共有し、実務にも落とし込んでいます。	会社の基本理念と開設当初に職員全員で考えた信条を、毎日の出勤時に目を通して項目ごとにチェックをすることで確認合っている。何かあれば常に理念をベースに検討しケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、地域の清掃活動などにも参加し、日頃からもできる限りの関わりを持ちたいと考えているが、今後、もっと関わりが必要。	天候のいい日には、事業所周辺のゴミ拾いや清掃活動を通じて自治会への働きかけを心掛けて来たが、コロナ禍で思うようには進まなかった。今後も引き続きできることをしていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの入居相談を積極的に受け入れているが、今後はもっと「認知症」に関することを前面に出して地域へ貢献していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の観点から、会議自体は中止し「近況報告」のみメンバーへ書面で送付していた。	コロナ禍で運営推進会議は開催できなかったが、参加者には近況報告を送付して、事業所への理解を促し、繋がりを大切にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に電話ではあるが、日頃から、連絡を合っている。要所要所で市役所へ出向いて話し合っている。	今年度は市から配給されるマスクや消毒のグッズをもらいに行き、その時々報告・相談をして連携を図ってきた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針やマニュアルを作成し、職員で共有している。	事業所が道路に面していることやコロナ禍でもあることから、玄関の施錠は行っている。安全のために居室の足元にセンサーを設置しているが、その他には身体拘束はない。職員会議で身体拘束の弊害について話し合っている。	身体拘束適正化に向けての委員会のあり方を再考し、今後は身体拘束について行った職員間の研修や会議での話し合いの記録をしっかりと整理して残されるよう期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	指針やマニュアルを作成し、職員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面やSNSを活用してきている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、書面や電話・SNSを活用し意見・要望などを必要に応じ反映している。	今年度はコロナ禍のため家族から直接意見や要望を聞く機会がなかったが、何かあれば家族への報告・連絡・相談は欠かさない。家族からも安心して任せられると感謝の言葉が寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、直接の会話やミーティング、連絡ノートやSNSなどを活用し、意見や提案を受け入れ反映している。	日頃から職員間の連携はしっかりとられている。意見や要望があれば代表や管理者が個人的に話を聞き対処している。毎年年初めに、職員一人ひとりが一年間に大切にしたいことや目標を書初めしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう、努めているが、昇給制度などを整備する必要がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍ではあるが、もっとオンライン研修なども活用していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この一年で同業他社との関わりは幅広く厚くなったが、職員互いの訪問などの交流はできていない。(コロナ禍で難しい)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい生活環境への不安を排除しながら、ご本人の想いや心配事をじっくり聴く場面を作り、安心して過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の利用者様への想いに寄り添いながら、報告や連絡する機会を多く持ち、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族様のアセスメントとサマリーから、その時に必要な支援を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1日の生活の中で、共に作業をおこなっていただいたり、家族のように何気ない会話をして過ごしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度、報告や相談をし、協力をしていただいている。毎週の写真入りのお便りやビデオ通話の継続、状況を考慮しながら短時間の面会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現況では、ドライブで馴染みの場所を通りながら、会話しながら以前の様子を回想していただいている。	コロナ禍で外食や商業施設に行ったりすることができなかった。それでも2～3人で上野の街並みなど馴染みの場所をドライブしている。また、NHKから昔の街並みなどの映像のDVDを借りて、みんなで懐かしく観入って会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で成立している時は会話の見守りをしたり、必要な時は、職員が間に入って対話しやすいように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された利用者様については、安定されるまで時々様子を伺ったり、折に触れてメールや紙面で繋がりを継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話から、また、入浴時や居室でじっくり話す機会をもちながら、その時の想いを把握するよう努めている。	殆どの利用者との会話により意思疎通が取れるため、一人ひとりの意向に沿ったケアを心掛けている。たまに、入浴時など職員と1対1になった時に出る本音に耳を傾け、新しい情報は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話や回想時の話などから得た情報を職員で共有している。家族様に詳しく伺い、より多くの情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員と共に行う作業や作品作りの様子、対話などから現状の把握に努めている。居室で過ごされている時は、訪室し声掛けしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人を中心に、ご家族と、とりまく周りの意見も反映させながら、その時の必要なケアと課題を作成している。	入居当初に聞き取ったアセスメントを基に一か月程利用者の様子を伺い、本人に必要な介護は何かをケア会議で話し合っってプランを作成している。6か月毎に職員のモニタリングや家族・医師の意見を加味して見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌と排泄表、連絡帳への記録にて、個々の利用者様の情報を共有し、より良いケアに繋げている。必要な時は、時系列で言動を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族様の状況により必要になった対応は、その都度相談させていただきながら、事業所として出来る範囲で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状では出来ていないが、地域資源を活用しながら、利用者様と地域との繋がりや楽しみを感じていただきながら生き生きと過ごして頂けるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に理解を得て、近隣にあるかかりつけ医に変更していただき、定期受診とその都度の指示を受けている。	精神科のかかりつけ医を持つ2名を含め、全員が事業所に隣接している協力医に診てもらっている。月2回の定期受診と、体調不良時には職員が付き添って受診している。訪問歯科診療も必要があれば依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を置いていない為、体調変化があれば早めに近隣のかかりつけ医に受診し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して過ごされ、スムーズに治療が進むよう、情報を提供し、対応の相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針については、入居時に家族様に説明し理解をしていただいている。体調の変化は都度報告し、重度化による転居については、慎重に話し合いをして、施設の紹介をするなど、共に考え支援をしている。	入居時に看取りはしない方針であることを家族に説明し、介護度が3になった時点で今後の方向性を考えてもらっている。家族からは看取りの要望が寄せられているが、グループホーム本来のあるべき姿を大切に維持していきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に初期対応の研修を受ける。緊急時の対応のマニュアル化をし、その日の役割分担を決めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との連携は、今後、具体的に進めていく。	地域の環境から、主に地震・火災などを想定した避難訓練を消防署に通報して実施している。今年度は自家発電機を購入し、災害時には照明など家電が使える安心感がある。コロナ禍で地域への協力要請については進んでいない。	コロナ禍収束後には、災害時の協力体制を自治会に要請し、消防署の指導の下で地域住民を巻き込み工夫を凝らした避難訓練を実施されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設運営信条を根幹とし、一人ひとりを尊重し、尊厳の気持ちを持って声掛けや対応を心がけている。全体会議で見直し、共有を行っている。	一人ひとりの言葉や表情をよく観察して、居心地の良い毎日になるよう支援している。特に座席の位置を工夫して、利用者同士の関係性に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のご自身の気持ちを表しやすい環境をつくり、その方に合った問い方をしよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ個々のペースで過ごしていただき、要望を実施できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めや散髪の送迎、付き添いを実施している。日々決まった服にならないよう、着衣していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は中止しているが、皆で準備をして鍋を囲んだり、豚汁作りなど実施して、食を楽しんでいただいている。外食の機会も設けている。	ご飯と汁物は事業所で作り、おかずは業者から届いた調理済みで急速冷凍したものを温めて提供している。誕生日には利用者の希望を聞いてメニューを追加し、職員の手作りケーキでお祝いしている。コロナ禍で外食に替わり、出前を取り楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口腔体操はしっかり行い、食事中的の見守りに重点を置いている。都度、量や形態を見直しながら、安全に毎食全量摂取していただけるよう努めている。習慣に応じた対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守り、一部介助にて口腔ケアの実施、定期的に義歯の消毒、1ヵ月毎の歯ブラシ交換を実施している。訪問歯科受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	汚染なく過ごして頂けるよう、排泄チェック表により声掛け、誘導、パット確認を行っている。利用者様によってはパットや紙パンツを使用いただき、一連の動作の自立を支援している。	排泄の自立度は高く自発的にトイレに行く利用者はいるが、主に排泄チェック表を基に声掛けをしてトイレ誘導し排泄管理をしている。夜間はポータブルトイレを利用する利用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により無排便の把握をし、下剤の調整や腹部、肛門部、下肢のマッサージを実施している。バナナヨーグルト、オリゴ糖、納豆、オリーブオイルを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回、決まった入浴時間の中ではあるが、安心して気持ちよく入っていただけるような声掛けをしている。また、リラックスした中での会話も大切にしている。身体の負担を考慮して1名が2回実施、ご本人の希望で1名が1回実施としている。	週3回の入浴を目標に、職員の負担が多くならないよう工夫して支援している。季節ごとに柚子や菖蒲湯、入浴剤などでリラックスした気分を味わっている。入浴時に出てくる利用者の話や本音を傾聴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況や以前からの習慣など、個々の生活リズムに沿って休んでいただいている。会話しながら更衣見守りを行い、安眠していただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事業所で管理し、服薬支援を行っている。症状の変化に注意し、かかりつけ医や薬局でアドバイスを受けながら、身体に負担のないよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の生活歴から得た情報から、それぞれの楽しみや気分転換の支援をしている。また、現在の毎日の様子を観察しながら、役割りに合った作業を依頼して、達成感や充実感を感じていただけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出が難しい現状の中、周辺の散歩や、花畑の観賞、馴染みの場所のドライブで外出支援している。利用者様によっては、その日の気分ドライブを希望されることがあり、対応している。	コロナ禍で例年通りの外食や買い物などの外出支援はできなかった。気候のいい日に事業所周辺の団地の中を散歩したり、2~3名ずつドライブして上野の街並みや馴染みの場所を車窓から見て会話を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の規則として「お金を持っていただかない」としているが、手元にあることで不安が解消される方は、家族様と相談して、持っただけでいい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に理解と協力を得て、電話やビデオ電話で会話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1ヵ月ごとに交換する共同作品の壁画や貼り絵ど、温かみのある空間作りを意識しながら、職員が発案と準備を協力して行っている。最近では、それらに伴う歌詞も付けて、皆さんに口ずさんでいただけるよう工夫している。	リビングは広々として、壁面には利用者の手作業で仕上げた作品が数多く飾られている。毎日合唱している歌の歌詞があちらこちらに貼られている。キッチン是对面式で、利用者全員に目が届くよう設計されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ふと座っていただけるよう、ソファや椅子を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある品や、ご本人が作られた作品、犬猫の写真や職員手作りのマスコットなど、飾り物と衣類の引き出しがある寝間でゆっくり過ごして頂けるような居室作りをしている。	居室のエアコン、押し入れ以外は全て利用者が使い慣れた家具などを持ち込み、一人ひとりの個性ある居室となっている。家族の写真や誕生日に受け取ったプレゼントなどが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分のペースで安心して生活していただけるように、また、自立に繋がるように、その方に必要な声掛けをしている。動線を見直し、安全な環境作りをしている。センサーマットの設置もその一つとして対応している。		